

はつこうだより

〒030-0132 青森県青森市大字横内字桜峰63番地1号
お問い合わせ：TEL 017-738-2104
FAX 017-738-2116

題字 *はつこうだより* (生活介護事業所はつこう 中野渡響さん)

入所クリスマス会

今年は、警報級の大雪でしたが、児童達は真っ白な雪景色に大喜び。なによりも12月21日(金)に開催されるクリスマス会を心待ちにしていました。これまで「コナホ」により外部からの来賓のご招待を控えていましたが、今年はご来賓の方々をご招待して開催しました。

いつもと違う雰囲気緊張気味の児童達でしたが会食が始まると厨房職員が作った豪華な料理を美味しく召し上がりました。特にチョコレートフォンデュは大人気で、口の周りにチョコがついている児童もいました。

アトラクションでは、児童の楽器演奏に拍手が起きたり、職員によるクイズで問題の答えが分かると元氣よく手を挙げて答えたりと大いに盛り上がりました。

イオン東北株式会社より寄贈されたケーキをごちそうになっていると、どこからか鈴の音が聞こえ、園長にそっくりなサントさんと山崎支援員にそっくりなトナカイさんがプレゼントを運んで登場！サントさんからのプレゼントに児童達は大喜びで、とても楽しいクリスマス会になりました。

最後にご来賓の方々、ボランティアの方々の協力並びに賛同企業から数々のご寄贈をいただきましたことに心より御礼を申し上げます。

こども支援課 支援員 千葉 正之

就労継続支援B型事業所はつこう収穫祭

地域支援第二課 支援員 久保田 寛人

9月26日(木)に利用者さんの交流や心身のリフレッシュ、作業意欲及び生産性の向上を図ることを目的とし、就労B型事業所の三大行事の1つとして、「収穫祭」を行いました。会場は例年通り、農産班ハウス前で昼食を兼ねたバーベキュー形式で開催しました。

作業場所がそれぞれ異なり、なかなか顔を合わせる事が無い利用者さん達もいるので、久しぶりに皆さんが揃うのを何日も前から楽しみにしていました。天気を気にしている方も多かったのですが、当日は快晴で天候にも恵まれ、利用者24名全員が揃って参加することができました。

焼肉、フランクフルト、農産班で収穫した採れたてのナス・カボチャ・ピーマン・ネギ等の焼き野菜、給食班で調理された野菜たっぷりのけんちん汁等々新鮮で美味しい食事に利用者さん達も笑顔で会話が弾み、とても和やかな昼食となりました。その後の片付けも利用者さん同士で協力し合いながら進めていきました。

日頃、真面目に作業を頑張ってくれている利用者さん達からも今年の収穫祭も好評の声が多く、良い思い出になったようで大成功でした。

ご協力して頂いた関係者の皆様、ありがとうございました。

生活介護事業所はつこうアニマルセラピー

地域支援第一課 支援員 小倉 未来

11月にアニマルセラピーを実施しました。アニマルセラピーを開催して6年目になります。最初は犬の俊敏な動きに驚く方がいらつやいましたが、定期的に開催されていることもあつたか、徐々に慣れだてておられる方も増えてきました。犬が苦手な方は個別エリアを設けて見学し、ふれあい等に参加する方を見せたり、「優しくね」と伝えると優しく触れることが少すつて出まるとなつてきています。中には「お座り」「お手」「おかわり」と上手に指示をする方もいました。アニマルセラピーの目的として、リラクゼーション効果やコミュニケーションの促進、ストレス軽減があると言われている活動に取り組んで頑張りでもリラックスできる環境が作れるように今後開催していきたいと思つています。

人事異動等

新採用者
地域支援第一課
支援員 加賀谷 明子

地域支援第二課
支援員 小倉 ひとえ
支援員 高橋 浩史
調理員 江刺家 陽子

苦情解決

令和6年度苦情申出状況
・サービスの質や量 (食事内容、サービス提供に関する不満) ……0件
・利用者の人間関係など ……0件
・職員の対応(態度、言葉遣い等) ……0件
・その他 ……0件
合計: 0件

令和6年度12月までの苦情解決申出は0件でした。利用者の方から寄せられた苦情については、適切な対応により、その解決にあたります。苦情及びその解決については、個人の情報にするものや申込者が拒否した場合を除き公表し、八甲学園の改善に努めます。

「寄附金のお礼」

共同生活援助事業利用者の野呂泰徳様のお兄様 野呂紀行様から寄附金をいただきました。心より感謝申し上げます。いただいた寄附金は当園の事業で有効に活用させていただきます。

「除菌布のお礼」

青森県長寿社会振興センター「青森シニアカレッジ」の受講生の方々より除菌布を寄贈していただきました。当園内での感染予防対策として有効に活用させていただきます。心より感謝申し上げます。

「節分の寄贈品のお礼」

2月2日の節分にて、イオン東北株式会社マックスバリュ幸畑店様より寄贈品をいただきました。いただいた恵方巻やお菓子・ジュースは入所児童達で美味しくいただきました。心より感謝申し上げます。

編集後記

令和6年度第3回目の広報誌を発行することができました。今後も利用者のニーズに応じたサービスを展開して参ります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。今回の題字は、生活介護事業所利用者の中野渡 響さんです。

※掲載されている写真はすべて、ご本人・保護者様の了解を得ております。

八甲学園 HPIはこちら

生活介護事業所はっこう 忘年会

地域支援第一課 支援員 秋元 早紀
12月24日(火)と25日(水)に各グループで忘年会が行われました。

Aグループでは、みんなで引いたくじの題材に沿って思い出を振り返り、豪華なお弁当を食べ、調理活動ではオリジナルのデコレーションケーキを作りました。Bグループでは、「焼肉美食いっや」へ行ってきました。皆さん、とてもいい表情で石焼ビビンバやカルビ定食を食べていました。Cグループでは、かるたゲームを行い、「ステーキ宮」のお弁当を食べ、調理活動にてカントリーマムサンドを作りました。

大きな行事ということもあり、スタッフも張り切って準備をしたので、利用者さんの喜んでる姿が見られて、とても嬉しい気持ちになりました。

皆さん、今年1年間お疲れさまでした。



就労継続支援B型事業所 はっこう忘年会

地域支援第二課 支援員 工藤 友紀
日に日に雪深くなっていく令和6年12月某日、就労B型はっこう利用者さんの忘年会が行われました。今年の開催場所は青森市新町にある中華料理店「龍鳳閣」でした。初めて行くという声も多く、皆さん楽しみにしていたようです。

龍鳳閣では、中華料理店特有の円卓で、作業班ごとに分かれて座りました。普段はなかなか座ることのない円卓、タインテーブル、大皿料理を取り分けるスタイル等、いろんなことが新鮮に感じられました。食事内容も、普段食べることのない料理をたくさん味わうことができ、料理が運ばれてくるたびに期待を込めて見つめる様子が多く見られました。利用者さんからは、エビチリや春巻がおいしかったとの声が聞かれました。

日頃は真剣なまなざしで集中して作業に取り組んでいる利用者さんも、この日はリラックスした表情で、会食や職員との会話を楽しんでいました。日頃の皆さんのがんばりのおかげで、今年も売り上げを伸ばすことができました。行事で英気を養って、また来年もよろしく願いますね！



こども支援課 千本引き



こども支援課

支援員 千葉 正之
令和7年1月2日にこども支援課では、正月行事として「千本引き」を開催しました。「千本引き」とは、束ねた紐の先に繫いだ景品を引き当てる福引きです。縁日の屋台などで見たことがありませんか？「千」は数が多いという意味で縁起のいい数と言われています。

児童達は、一人ずつ順番にたくさん紐から一本選び、何が当たるかワクワクしながらゆっくりに引っ張るとぬいぐるみやお菓子を引当てました。

全員が紐を引き終わると、皆さんでお菓子を食べたり「芋あて」をやったりとほのぼのとした雰囲気でお集まりしました。

正月らしい行事や遊びはたくさんあるので、冬休みの間も児童達が楽しめるような企画を用意し、職員と共に冬の思い出を作っていきたいと思っています。



共同生活援助事業所サンハウス 利用者の会「はっぴい」



地域支援第二課

副主任支援員 土岐 拓司
共同生活援助事業所サンハウス(定員55名)では、利用者の会「はっぴい」というグループホーム利用者さんが主体となって活動する会があります。しかし、コロナウィルスの感染拡大に伴い、令和3年2月に開催された新年会を最後に活動が休止となってしまいました。休止中は、利用者さんから活動再開を望む声や行事を楽しみたいという声が続々と上がっていました。

コロナウィルスも下火となった今年度、利用者の会「はっぴい」の活動を再開することになりました。ただ、この4年間で入退所した利用者もおり、以前と顔ぶれも変わっていることから、各グループホームで新たに代表者を選任するところから始めました。そして、令和7年1月12日(日)八甲学園会議室にて、利用者の会「はっぴい」会議を開催し、今後の活動の話し合いを行いました。全ての代表者が集まることはできませんでしたが、来年度に向けて様々な意見が飛び交い、充実した会議となりました。

これから、徐々にではありますが、利用者さんの余暇充実を図るための活動に取り組んでいきます。皆さまのご協力が必要とする場面もあると思いますが、その際は何卒よろしくお願いいたします。



相談支援事業所あおば 青森県子どもの発達支援 ガイドブックの紹介

相談支援専門員 牧野祥諒

2022年(令和4年)3月に青森県発達障がい者支援センター「ステッブ」が青森県と弘前大学の監修で発行した「青森県子どもの発達支援ガイドブック」を紹介させていただきます。県内の多くの機関に配布されたため、目にすることがある方もいらっしゃるかもしれません。本ガイドブックは子ども一般的な発達、関わり方、子どもの気になるとされる行動の考え方、発達障害について、支援機関等の情報について等、幅広い情報が得られます。子どもに関わる支援者を主な対象として作成されていますが、保護者や一般の方々も子どもをより知るために活用しやすいものになっていると思います。また、発達や行動については年齢に関わらず普遍的なもので、学齢期や成人の方々に関わる際にも活用できると思います。青森県発達障がい者支援センター「ステッブ」のHPで無料ダウンロードが可能ですので、一度ご覧になってはいかがでしょうか。

今後も折を見て皆さまにとって有益となるような情報提供ができればと思います。相談あおばとしても知識やスキルの向上に努め、日々の相談支援を提供させていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願いいたします。

